

西光寺だより

第六十一号 平成二十七年 九月一日発行

九月に入り、夏休みを終えた子供のように季節も落ち着きを取り戻してまいりました。照りつける日差しは少しづつやわらかくなり、蟬の大合唱は秋の虫たちの音色へと変わっていきます。濃い緑に育った稲穂も実が熟し徐々に黄色くなってきました。そうやって秋はいつの間にか訪れ、ある日すっと夏の終わりを気づかせてくれるように感じます。

この頃に見られるコスモスも秋風に揺れてわたしたちの目を楽しませてくれます。もともとはメキシコ原産で明治時代に渡来した花なのですが、「秋桜」と書かれるほど日本人の心にも根付いています。風に揺れるピンクや白の優しい姿は、こちらの心までもやわらかくしてくれるようです。花言葉は「乙女のまごころ」「愛情」「たおやかさ」。

そう、じつはコスモスはとても優しく美しくありませんが、とても強い花なのです。日当たりさえよければどこにでも生え、台風のような強い風で倒されても倒れたところから根を出し、たくましく起き上がりまた花をつけることが出来ます。葉は線のように細く、繊細そうに見えても、じつにしなやかに生きています。

風にゆれるこの優しい花を見てみると、「やわらかな心であり続ける強さ」を教えるもらっているような気がします。どんな状況にあっても優しくいられるための強さ。倒されないほどの強靱な太い茎を作るのではなく、風に吹かれても揺れるしなやかさを持つこと。

「本当の強さとは何か」「何を守るための強さか」コスモスは優しい姿で頬笑みながら、わたしたちに一つの生き方を教えてくれているのかもしれない。



◆九・十月の行事◆

・九月〇日 在家報恩講

*毎月のお逮夜日を報恩講のお飾りでお待ち下さい。(ローソクは赤)

・九月十七日(木)

大谷本廟墓参(みのり講・穂積講の方)

午後二時 大谷本廟お茶所

*墓参の際、念珠・経本・千円(みのり講の方)を

宜しくお願い致します。

年に一度の西光寺での墓参です。皆さままでお参り致しましょう。

・九月十九日(土)

仏教婦人会報恩講

午後一時 西光寺本堂

・十月三日(土)

秋季永代経法要

午後二時・七時 西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使 宮部 誓雅 師

◆先月の報告◆

①八月十五日(土)西光寺本堂にて、孟蘭盆会法要を厳修致しました。

暑い中、約三十名の方々と共に阿弥陀経のお勤めをさせていただきました、夏の御文章を拝読させていただきました。

今年は、戦後七十年という節目の年であり、過去の日本の出来事は変えることはできませんが、多くの尊い命のうえにわたくし達の今の命があると思わせていただく時、ただただ手を合わせることにしかできません。そのことを感じながら今年の孟蘭盆会法要は戦没者追悼の表白も入れさせていただき皆様とお勤めをし、お焼香させて頂きました。

②八月二十二日(土)、沢良宜浜の安楽寺にて子育て支援活動会議が開かれ、今年度も茨木東組重点プロジェクトとして去年に引き続き子育て支援を行うこととなりました。

つきましては、去年西光寺で行った子育て支援を今年度は沢良宜浜の安楽寺・総持寺の常稱寺にて行います。

まずは、沢良宜浜の安楽寺にて九月二十六日(土) 昼一時三〇分～三時まで行います。茨木東組十八カ寺の奥様(坊守)方を中心に子育て奮闘中の方々に、お寺を通して社会への貢献をめざして取り組む活動でございます。今回は『たのしくお寺で遊ぼう!お話・腕輪念珠と水鉄砲づくり』と題して、お子さんと共に紙芝居・腕輪念珠作り・懐かしい竹水鉄砲づくりなどを通して同じ立場の方々と交流を持ち、楽しいひとときを過ごしてもらおう企画でございます。内容はその都度変更致します。是非とも参加して頂き共に過ごしたいと思致します。

締切は九月十九日(土)で、西光寺までお願い致します。

③八月下旬より西光寺境内にある外便所の工事が、総代様はじめ講員の方々のご協力・ご支援のもと辻博建設様によりはじまりました。皆様にとってより良い環境作りのため、いいものが出来ると確信しております。総代様・講員の皆様、本当にありがとうございます。

●九月からの在家報恩講について少しお話させていただきます。

そもそも報恩講は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人のご命日の前後に、報恩謝徳のために営まれる法要のことです。京都西本願寺では、親鸞聖人のご命日である弘長二年十一月二十八日(旧暦)は、現在の暦では一二六三年一月十六日であり、毎年一月九日から十六日まで御正忌報恩講をお勤めしております。浄土真宗の僧侶・ご門徒にとつては、年中行事の中で最も重要な法要である本山で営まれる報恩講は、「御正忌報恩講」と呼ばれ、一週間にわたり営まれます。別院・各末寺・各一般寺院においては、「お取越」もしくは「お引上」と呼ばれ、「御正忌報恩講」とは日付をずらして営まれます。その理由は、すべての僧侶・ご門徒は御正忌報恩講期間中に、本山(西本願寺)にお参りをするための慣わしとされるためであります。

そして、ご門徒のお内仏(仏壇)の前においても、所属寺院(お手次寺)の住職を招いて「お取越」「お引上」にて報恩講が営まれます。「門徒報恩講」・「在家報恩講」とも呼ばれています。

西光寺におきましては、本山西本願寺の御正忌報恩講に皆さんがお参りするために、日をずらして十一月二十三日に西光寺本堂にて報恩講をお勤めさせていただきました。その西光寺の報恩講に皆さんがお参りできるように、日をずらして九月に皆さんのお仏壇にて報恩講のお勤めをさせていただきます。皆さんと共に在家報恩講を通して、親鸞聖人のつくられた『仏の功德をほめたたえる詩』である正信偈をお勤めさせていただきます。報恩謝徳の思いを共に深めたいと思致します。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二一四七九四

FAX 〇七二一六二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>